

たまがわ高等支援学校 Since 2006

# T-magazine

おかげ様で 10 周年

**特集**

職業学科の取組 ～専門分野 さらなる進化～

キャリア学習で就職の道を切り開く

ここが知りたい卒業生の就労率

10 周年 記念事業

働く力を育む

2017

たまがわ高等支援学校は  
地域・企業の皆様に  
支えられ、おかげさまで10周年。

# 10<sup>th</sup> tamagawa ANNIVERSARY

たまがわ高等支援学校は2016年に開校10周年を迎えました。

これを記念した「10周年記念事業」では、全校で様々な取り組みを行いました。

本校の発展にご尽力いただいた地域・企業の皆様方に感謝し、より皆様に親しんで  
いただけるような本校の特色や魅力、そして未来への展望となる活動を紹介します。

## ★ ★ ★ ★ ★ 10周年記念事業



### 創立10周年記念講演会

平成27年10月14日（水）講師に石塚謙二氏（大阪府・豊能町 教育長）をお招きし、「支援教育×キャリア教育 たまがわの就労支援の成果と課題」をテーマにご講演いただきました。パネルディスカッションでは、様々な方にご登壇いただき、現状の課題を多種多様な視点から話し合うことができました。



### 創立10周年記念式典

初代校長を含め、今まで本校の発展にご尽力いただいた方々とともに今までの本校を歴史を振り返りました。また祝辞のお返しとして、生徒たちによる合唱や、生徒たちの顔写真で作ったモザイクタイルのような校章などを企画し、大いに盛り上がりました。その後日には、たまがわフェスティバルを開催し、地域の方にも楽しんでもらえる文化祭を催しました。



### 記念誌刊行

これまでの10年間の歩みをまとめた研究紀要を刊行しました。職業教育や自立活動における様々な実践と試行錯誤が詰まったものとなりました。記念品として、ボールペンやクリアファイルも作成しました。実用的で温かみのあるデザインだというお声をいただいております。



professional  
education

craftsmanship

food production

welfare

horticulture

office

backyard

# 職業学科の 取り組み

特集

10年間の教育実践を経て、本校の職業学科はどう進化したのか  
ものづくり科・福祉 園芸科・流通サービス科に加えて販売・清掃分野の  
8分野を総力特集！試行錯誤を繰り返し、更にその先をめざす



専門分野はさらなる進化を！

働く力を身につける

## 職業学科の取組 ものづくり科編

注目すべきは、技術に特化した専門実習カリキュラムである。



「木材加工から学ぶ」



「業界のプロから学ぶ」

### 産業基礎分野

産業基礎分野では主に木材加工実習を行っている。

1年次は主に手工具を中心に木材加工の基本を学び、2,3年次になると電動工具や空気圧式工具を多く取り入れ作業を行っている。毎年11月に実施される「たまがわフェスティバル文化の部」では、授業で製作した木工品を販売している。近年では、跳び箱型の小物入れや賽銭箱型の貯金箱など、担当教員が工夫を凝らし製作に当たっている。このような商品は、100個～200個単位の大量生産を行う為、商品に工夫を凝らすだけではなく、いかに効率的かつ生徒が分かりやすい作業工程を考えることが肝要である。

実習室をものづくり工場のライン作業のように見立てて、作業の流れを明確にし、加工部門、組立部門、塗装部門といった工程別に作業を分担させ1つの作業に集中できる環境作りを行っている。このような作業を通じて、就労する上で必要な集中力や持続力を身につけさせている。

### 食品生産分野

今年度は12月に製造物のスキルアップとして社会人講師をお招きして、3年生と共に「スイートポテト」「焼きドーナツ」の製菓実習を行った。開校以来、生徒を対象とした社会人の講習は、製パンは今まであったが製菓は初めてであり、どうなるか楽しみだった。生徒は、プロの技に「生地のお入れ方が速くてきれい！」「ゴムペラの扱い方がさすがプロですね！」など演習をされるたびに反応や拍手があり、目が生き活きとしていた。

講師の方からは「会社の方針で最初は仕方なくやっていたお菓子作りだけど、面白くなり今日まで続けています。みんなも新しいことにチャレンジをしてみてください。」「お菓子作りをしたくてこの世界に入りましたが、しんどくて一度やめてしまいました。でも、やっぱりお菓子が好きなので、またチャレンジをしています。」などのお話を最後に生徒向けにいただいた。ご指導していただいた「スイートポテト」「焼きドーナツ」は、たまがわランドで商品化し販売したい。

### 木材加工

加工・組立・塗装は工具を多用して全員で完成を目指す



加工



組立



塗装

### プロスキル

製菓に必要なスキルをプロの実演から学ぶ



Pâtisserie SUCRE

講師：大西 良氏  
黒川 利男氏



専門分野はさらなる進化を!

働く力を身につける

# 職業学科の取組 福祉・園芸科編

注目すべきは、教育内容を交流連携学習へと進化させるカリキュラムである。



## 福祉分野

1年生では、高齢者体験・車いす体験・ユニバーサルデザインなどの体験学習を通して、様々な立場に立ち、気持ちを感じることから学習を始める。また、「ハンドケア」を通して人の身体に触れる上での留意点も学んでいく。

2年生からは、「介護職員初任者研修課程」の資格取得に向けた授業を行っている。新制度から修了試験(修了評価)に合格することが資格取得の必須条件となり生徒自身にとって負担は大きいものの、その分資格を取りたいという意欲が高まり、8・9期生ともに20名全員が合格し目標を達成することができた。また、地域交流の取り組みとして、近隣のデイサービスセンターでハンドケアやレクリエーションを通して、触れ合い交流を行う。生徒の多くはコミュニケーションに苦手意識を持っている生徒が多く、福祉の就労をめざして福祉・園芸科に入ったものの、職場実習で利用者様と満足いくコミュニケーションが取れなかったことで、福祉への就労を諦めてしまうケースが多くあった。

この校外学習では、定期的に訪問することでコミュニケーションを深めていき、1・3年生が合同で行くことで先輩の姿から2年後のイメージを持てるようにしている。

## 体験型学習

様々な体験から介護される側の気持ちを考える



高齢者体験



車いす介助

## 園芸分野

開校当初からの栽培実習の基盤をもとに、これからは、教育内容を交流連携学習へと進化させたい。

キーワードは「農で遊び」「農で学ぶ」である。

- ①本校産の野菜、草花の即売会を定期的に行う
  - ②幼稚園・保育所と連携し、栽培・収穫・加工体験のイベント、開放講座の実施
  - ③植物を利用した地域への奉仕活動
- 以上3点を柱に、積極的に外部機関や農家、地域と関わりを持っていく。

「たまフェス」では、日頃の実習の成果を発表する場として、「お客様のため良い物を作り、喜んでもらう」をモットーにイベントを考え取り組んだ。「自分たちで作ったものを自分たちで売る」ことは非常に効果の高い教育活動だ。

## 体得させる3つのスキル

問題解決能力  
「生きる力」  
「キャリア教育」

### 農業技術

Technical skill  
高品質な商品生産

### 発想力・企画力

Conceptual skill  
企画・実行・発信

### 相互理解能力

Communication skill  
他の立場で考える



専門分野はさらなる進化を！

働く力を身につける

## 職業学科の取組 流通サービス科編

注目すべきは、コミュニケーションを育み協力し合うことができるカリキュラムである。



### オフィスサービス分野

オフィスサービス分野（以下「オフィス」と略）では、パソコンや文具を使った事務や倉庫での作業実習を3年間をかけて学んでいる。

今年度は、たまがわランドのためPOSの活用や広告活動も積極的に行った。

特に授業において大切にしていることは、以下の3点である。

- ①指示を理解する努力をしたうえで、自分から進んで行動できること
  - ②わからないことは「わかりません。教えてください。」と自ら質問することや「ありがとうございました」と素直に感謝の気持ちを伝えられること
  - ③周囲と協力し合いながら「お互い様」の気持ちを持てること
- 今後の課題は、開校当初からある充実した教材をうまく活用しながら、生徒の特性、社会の変化に対応していくことである。

そして、オフィスの「育てます 協力し合う やさしい心」というキャッチコピーを教員自身が忘れることなく、チームとして指導にあたる必要がある。

### 幅広いオフィス業務

ビジネスの現場に必要な技術やコミュニケーションを学ぶ。日本語ワープロ検定にも挑戦！



ピッキング



給茶



電卓演算



### バックヤード分野

バックヤードサービス分野（以下バックヤード）は本校独自のカリキュラムとなっている。

『バックヤード』という分野の名前から就労先はスーパーマーケットへというイメージをされやすいが、どんな職種の仕事にも対応できるようにバックヤードでは大きく分けて5種類の作業の授業展開を行っている。

実習を中心とした授業内容になっているが技術の習得だけを目的にしておらず、体力、集中力、コミュニケーション能力、忍耐力など就労で必要になるであろう基礎的な能力が身に付くよう工夫して授業を行っている。また、卒業後すぐに社会へ飛び出す生徒たちが少しでも就労をイメージできるよう校外での学習や外部講師の授業を取り入れるように工夫している。

### 就労に必要な5種の作業

#### 厨房系

- 食器・器具の洗浄と清掃の技術、手洗い等の衛生観念
- 周囲の動きを見て何をすべきか考える力

#### パンケツ系

- 美しくカトラリーを並べ、料理をサービスする技術
- お客様（相手）の気持ちを想像して行動する力

#### ハウスキーピング系

- 意思をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力
- 体と手指を連動させて行う繊細な動き

#### 縫製系

- 細かい作業への集中力
- 流れ作業で必要な安全管理と確認・報告

#### 洗濯系

- 体力と大きな声の報告
- チームワークと責任感



校外パンケツ学習



専門分野はさらなる進化を!

働く力を身につける

# 職業学科の取組 販売・清掃編

注目すべきは、学習内容を定着させる反復学習やIT機器の駆使である。

「実技演習から学ぶ」



「ココロから学ぶ」

## 販売分野

### 1. 組織としての取り組み

この10年間、本校の教育目標を基本理念として学習内容を組み立て、変化する生徒の実態に合わせて試行錯誤しながら、改善や新たな取り組みを実施してきた。

販売ではいずれの授業においても2名の指導者を配置し、実際の授業での経験を通して専門性を獲得し、指導者間の引き継ぎを続けている。

### 2. 学習内容の定着に向けて

販売の授業は、全学年において清掃と交互に隔週で2時間ずつ実施している。2時間連続の授業で丁寧に指導できる反面、行事や休日などが重なると1カ月以上授業がないことがあり、学習内容の定着が課題である。実物を使用した視覚的なアプローチと実技演習を重視し、①教員の演示②グループ練習③カフェの開店の反復により定着を図る。たまがわフェスティバル「文化の部」での開店も、定着のための大切な経験になっている。

### 3. 外部機関との連携

①スワンペーカーリーのご協力による「パン販売」②「共に生きる障がい者展」喫茶ブースの開店、③「アビリンピック大阪大会」喫茶サービス部門への参加など、外部機関との連携も行っている。授業で身に付けた力を発揮し自信を育む機会として大いに役立っている。

## アビリンピック大阪大会



アビリンピック大阪大会 喫茶サービス部門では決められた接客サービスのシナリオに従い競技する。例年、本校は上位に入賞し、大いに活躍している。

## 清掃分野

本校において、清掃は共通専門科目という位置づけであり、全員が3年間通して学習をする。このことの大きな意義として「1人の人間として自立していくために欠かせない活動」であることがあげられ、言わば社会に出たときのベースの力となる。現在、清掃分野では「校舎に感謝 心から磨く清掃」を提唱し、校内に掲示している。これは、清掃を通して普段使っている場所や、周りの人への感謝の気持ちを持つことで、豊かな心の持ち主になってほしいという思いを込めている。

このキャッチフレーズが、今後の清掃分野の活動でも大切にしていけるキーワードである。

本分野の授業では、視覚的に作業のイメージを持てるようIT機器やソフトウェアを活用している。

パワーポイントを活用し講義の効率化につなげ、作業時間を増やすことに成功している。また、iPadの導入により手順の流れを映像で確認することで、生徒の定着度は確実に上がっている。生徒の作業を撮影し具体的にフィードバックもできるので、今後も取り入れていきたい。

## ボランティア清掃



清掃は、学校内だけではなく、ボランティアとして校外におもむき、ボランティア活動にも参加している。



# 自立活動



## 本校の位置付け

支援学校の教育課程を構成する領域は、各教科（分野）、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動等がありますが、知的障がい支援学校在籍する生徒には、様々な面で発達の遅れや配慮を必要とする状態がみられます。発達に応じた各教科の指導等の他に特別な指導が必要であり、これを「自立活動」で指導することになります。

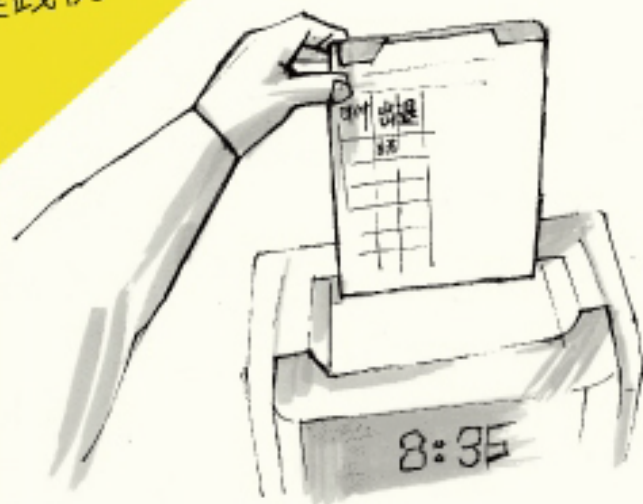
本校の教育目標は、「心豊かな人間の育成を図り、就労を通じた潤いのある社会的自立をめざす生徒を育成する」です。この目標に鑑み、①学校生活全般を通して各生徒の「個別の課題」となるようなこと、②朝と帰りの「自立活動の時間」や昼休み・LHR等にクラス単位で個々の生徒や全体の課題として対応されている内容、③卒業後の余暇活動の充実を目的としたクラスごとの校外学習（＝「たまがわバックツアー」）や修学旅行および1年次の「宿泊研修」（→個別的教育支援計画）「個別の指導計画」等の作成に活用）に関する指導の総体を、本校では包括的に「自立活動の指導」と位置づけています。



## 自立活動の時間

本校では平成27年度から、従来の朝と帰りのSHRを「自立活動の時間」として明確化しました。自立活動の6つの領域である『健康の保持』『心理的な安定』『人間関係の形成』『環境の把握』『身体の動き』『コミュニケーション』について、担任による指導・支援のための諸活動を丁寧に時間をかけて行なうことにより、生徒自身が障がいや障がい特性の改善・克服をはかり、「本校の教育目標」を自己実現するための時間としています。

### 自立活動・キャリア教育 実践例



## タイムカード

電車に乗る時、お金を下ろす時、レンタルCDを借りる時など、ICチップのカードが世の中を席卷していますが、労働者が出勤した日付、出勤時刻、退勤時刻を記録する用途に企業ではまだまだ、アナログ的なタイムレコーダーを用いられている所が多いのではないのでしょうか？

そこで本校では、キャリア教育の一環として、タイムレコーダーの使用法やタイムカードへの意識喚起を図る目的で、登下校時必ずタイムカードに打刻する取り組みを行っています。それぞれの期間の登下校時の打刻がすべて黒色であると、「オールブラックス賞」が授与されます。生徒たちは、毎日のタイムレコーダーの打刻の音を楽しんでいます。

## 表彰の種類

月間オールブラックス賞／前期・後期オールブラックス賞  
年間オールブラックス賞／ALLオールブラックス賞  
(クラス全員がオールブラックス賞)  
パーフェクトオールブラックス賞  
(3年間オールブラックス賞)



#### 4.Looking back 1日の振り返り



#### 2.Check 健康・歯磨き チェック



#### 1.Moderator 司会進行



#### 3.Arrange 整理



#### 6.Clearance 一斉清掃

#### 5.A talk 個人面談



## 「自立活動の時間」の取り組み

「自立活動の時間」は、個々の生徒の障がいの実態や特性に応じて、学級の係活動やLHRのほか様々な校内活動（生徒会・委員会活動等）と連動して、自立活動の6領域を包括するような学級担任等による日々の指導・支援（ソーシャルスキル・トレーニング等を含む）としています。たとえば、

- ①「朝の会」と「終りの会」の司会進行は生徒主体とし、学級係りや委員会活動等と最大限リンクさせる。
- ②日々の「健康チェック」「歯磨きチェック」（保健衛生委員）、「身だしなみチェック」（学級委員）など生徒会の活動に取り組む時間とすると共に、それに伴う個別課題を改善するための担任からの支援・指導（ソーシャルスキル・トレーニング等を含む）を充実させる。
- ③更衣のみならず、着衣や身だしなみの確認指導、本棚・更衣ロッカー・机の中など日々の整理整頓の時間を確保する他、更衣室などの使用マナーや必要に応じてメモを取る練習等、社会的自立に向けての指導・支援を徹底する。
- ④「連絡ファイル」「一日の記録」などの「一日の振り返り（業務日誌的なもの）」に加え、「個別の支援（振り返り）シート」等を活用し、本人が自らの障がい特性や課題を確認・改善するための時間とする。
- ⑤定期的な「個人面談」や「クラスミーティング」「〇分間スピーチ」等の、担任による日常生活指導や学級経営を通して、全体及び個々の友達同士の関係性（＝「人間関係の形成」）や「コミュニケーション」の課題に継続的に取り組む。
- ⑥月曜～木曜はクラスごとの簡易清掃（教室）、金曜は一斉清掃（＝クリアランス・デー）に取り組む時間を保障し、校内や周辺の環境整備に常時努める。などです。

## まとめ

本校は大阪府で初の「入学者選抜を伴う高等支援学校」として、平成18年4月にスタートしました。これまでに前例のない歩みの中で、本校における「自立活動」とは何か？という問いは、開校から11年に至る試行錯誤の過程でもあります。常に生徒ひとり一人の課題に向き合いながら、さらに望ましい指導形態やツールの開発と共に、それを広報していくこともまた、「パイロット校」としての本校に課せられた責務だと言えるでしょう。



# キャリア学習

## キャリア学習の必要性

本校では「就労に向けた取り組みを通して、卒業後の進路について自ら考え行動する姿勢を育てる」ことをキャリア学習の目標としています。各学年の目標は下記の通りです。

### キャリア学習目標

#### 1年生

- ①社会のルールとマナーを知る
- ②どんな仕事があるのかを知る
- ③何のために働くのかを考える

#### 2年生

- ①自分の得意なこと・苦手なことを自覚する
- ②仕事として自分ができていることを考える

#### 3年生

- ①自分が就労するために必要な手段を知る
- ②働き続けるために自分にとって何が必要かを考える
- ③卒業後に相談できる支援機関を知る

一般社会での学習の機会をより効果的なものにするためには、実習での経験や課題を振り返り、整理する必要があります。また、挨拶や言葉づかいなど社会人として生活していくための新しい知識を学ぶためにも、キャリア学習の時間は重要であると考えます。



データで見る

8期生（H28年3月卒）の進路状況

就労率は8割を超えました

#### 就労

製造	3名
食品製造	5名
介護補助	9名
事務補助	8名
販売、接客、品出し	7名
倉庫内軽作業	9名
清掃業	4名
飲食店（厨房、接客）	8名
サービス	1名

就労継続支援（A型）事業所1名を含む

#### 進学

職業訓練校 1名

#### 福祉

就労移行支援事業所 2名

自立訓練事業所 2名

#### その他

未定 2名



本校には知的障がいのある生徒が就労を通じた潤いのある社会的自立をめざすという学校目標があります。そのため一般教科、専門教科ともに就労を見据えた授業内容を展開しています。更に進路指導の一環として1年次の「職場見学」にはじまり、「職場実習」を経験することで社会との繋がりを実体験として活動する機会を設けています。一方で、「キャリア学習」と称して校内で年間約10回に渡り、授業を実施しています。

## キャリア学習の取り組み



職場見学



グループワーク



職場実習：リネン



職場実習：食品



職場実習：事務



職場実習：スーパー



職場実習：製造



職場実習：清掃

1年次は5日間の職場ガイダンスを行い、その中で「どんな仕事があるのかを知る」ために職場見学を実施しています。そして秋に1週間の職場実習を体験します。

2年次は年間2回（計4週間）の職場実習を行い、「自分の得意なこと・苦手なことを自覚する」ことが目標です。1年次も含めた計3回の職場実習を経験することで「仕事として自分ができること」に向き合わせています。

3年次では就労に向けた職場実習とともに、「働き続ける」を実現するためにハローワークなど関係機関についても学習をしています。

## キャリア学習のまとめ

開校から試行錯誤をしながら、「キャリア学習目標」をこの数年で作成しました。

しかし、生徒の実態に合わせた学習内容を考えていくという柔軟性を忘れてはならないと考えています。またキャリア学習や職場実習は進路選択をするためのきっかけ作りであることも忘れてはなりません。「就労を通じた潤いのある社会的自立」を実現するために、私たち教員が日々の授業や規則正しい日常生活の大切さを今後も伝えていきたいです。



学校を  
見て  
聞いて  
感じる。

企業・入学希望者・  
本校に興味を  
お持ちの方に  
向けて  
本校では、  
様々なかたちで  
学校を紹介して  
います。



## 事業所 見学会



事業所対象の学校見学会は年に3回開催されています。  
企業の方を学校へお招きして、本校の概要を説明し、生徒たちが  
授業に取り組む様子を見学していただいています。今年度も、多くの  
企業に参加していただきました。

本校の特色である職業科6分野の授業を中心に、企業の方に見学を  
していただいています。それぞれの分野で授業のカラーや取り組む  
作業は違いますが、どの分野も、作業を通して「就労に必要な力を  
身につける」ことを共通の目標としています。

企業様からは「生徒の皆さんが懸命に取り組む姿に感銘をうけた」  
「元気であいさつがよい」「思っていた以上にいろいろな取組をされ  
ていて驚きました」などと様々な感想をいただいています。

## O P E N S C H O O L



「オープンスクール」は本校の教育に関心のある方ならどなたでも  
参加していただけます。平成28年度は9月14(水)、15(木)、  
16(金)の3日間行いました。本校1年生が各教科のプレゼンを  
体育館の舞台の上で行い、2年生が専門授業のプレゼンをそれぞ  
れの実習室で行います。(ちなみに3年生は職場実習中です)

『堂々と発表している』と褒めていただくことがあります但实际上には  
ものすごく緊張しながらそれでも参加者の方に本校の事が伝わる  
ように・・・と頑張って大きな声で発表しています。

短い練習期間と1回のリハーサルで発表を行っていますので  
つたない部分もあると思います。ご不明な点等は最後に質問時間を  
設けておりますのでぜひ、機会がありましたらお越しください。





## 学校見学会

本校の特色ある職業に関する専門授業や部活動等の学校生活を見学してもらい、また本校のアドミッションポリシーや入学者選抜に関する説明を、本校へ進学を考えている中学校・中学部の2、3年生とその保護者を対象に実施しています。(H27年度より2年生も対象となりました。)



参加者数	平成28年度				
日程	合計	中学2年生	中学3年生	保護者	教員
11 / 21	167	23	45	84	15
11 / 22	106	14	28	47	17
合計	273	37	73	131	32

## 中学校等担当者公開授業

本校では6月の初めに「中学校担当者公開授業」を行っています。中学校での進路指導の際に、本校の目的「卒業後の就労をめざしてチャレンジする支援学校である」ということを理解して伝えてもらうことが大切であるのではないかと考え、平成26年度より行っています。今年度は64名の新入生に対して41名の中学校担当の参加があり、39名の生徒の様子を見ていただくことができました。生徒たちも中学校の先生方に会え、頑張っている自分たちを見てもらえる楽しみな取り組みになっています。中学校担当者からも「ちょうど学校に慣れてきたこの時期に卒業生の様子が見られることは嬉しい。また、全ての学科を見ることで、たまがわが何をめざしているのかがわかる」というようなご意見をいただいています。





# 今号のインタビュー INTERVIEW WITH 卒業生 1 期



## PROFILE

1期生 福祉・園芸科 (平成19年度3月) 卒業 日野 貴広 さん

本校福祉・園芸科で所定の課程を修め、訪問介護員2級(現在は介護職員初任者研修)取得する。在学中から介護現場での仕事につきたいという目標を持ち、福祉・園芸の授業は積極的に取り組んでいたという。自分の気持ちを言い表すのが苦手で、本人もしんどく思う場面が多々あったが、担当教員の支援で乗り越えてきた。

### 卒業生を訪ねて

社会福祉法人 仁風会 特別養護老人ホーム ビオスの丘  
東大阪市鶴根寺町1-5-31

生駒山地の山麓に位置する「ビオスの丘」。

静かな住宅街を上がっていくとやっとの思いでたどりついた。

この生駒山地は、東西5kmほどの範囲だが奈良側に対し大阪側の斜面が非常にきつい。日頃の運動不足を反省しながら、施設を訪問した。

ホールに案内された途端、「がんばれー」「よおーし、ナイスです」と、元気の掛け声が響いてきました。

長野冬季オリンピックでメジャー競技になったカーリングのようなゲームを利用者様20名の方々と興じていたのが、卒業生日野さんでした。

先輩のアシスタントをしつつ、利用者様に楽しんでいただけるよう声を出し、きびきびと動き回っていました。

「おやつ」の時間の合間に、お話を伺うことができました。



卒業して何年が経ちましたか？

卒業して、8年でしょうか。

現在の職場は、就労して

何年が経ちますか？

この「ビオスの丘」に来て2年くらいになります。(それまでは、同法人の他施設)

たまがわでの思い出を教えてください。

クラブ活動です。剣道部に入りました。

たまがわ第1号でしたので、キャプテンでした。

印象に残っている先生は？

2年から福祉を教えて頂いた重松先生で優しい先生でした。

昨年秋の「たまがわフェスティバル文化の部」でもお会いしました。

働き出して、自分は成長したと思うことは？

ふざけたりはあるけど、しっかりと上司や先輩の話は聞く姿勢が身についたかな。

自分はまだまだ未熟だなあと、思うことは？

いっぱいあり過ぎてわかりません。

初めての給料は、何に使いましたか？

親と食事に行きました。お寿司だったかな

働くうえで、やりがいや達成感を感じるのは？

利用者さんに「ありがとう」と言われた時が、うれしいです。疲れがふっとびます。

将来の夢や目標は？

車が好きなので、車の免許を取りたいです。

利用者様の送迎の業務にも就きたいです。

たまがわの後輩たちに一言、エールを！

言葉遣いは気をつけて学んでほしいです。

僕も就労してからも注意を受けますが、

仕事上大切なことだと感じています。

## 10の質問

スタッフの方から・・・

日野君には、「フットマッサージ」の運営面も含め、全面的に任せています。本人の仕事に対する意欲が強く、できることは、どんどんやって貰っています。就業後の研修会にも積極的に参加していますし、送迎時の添乗も本人の希望です。欠勤や遅刻もなくこの8年で休んだのは、インフルエンザで4日位でしょうか。フットワークが軽く、優しい人柄ですので、周りのスタッフの理解、サポートもありのびのびやっています。ただ、時に自信過剰になっている時は、しっかり注意させてもらっています。(笑い) あと、昼休みと仕事のけじめもしっかりできるよう先輩にも気をつけてもらっています。



2017

# CLUB activities

## SPORTS & CULTURE

クラブ活動で輝く個性！！  
スポーツで体を動かし  
文化部に夢中になる



### チャレンジスポーツ部

Challenge Sports

バスケットは7月に行われた「大阪支援学校バスケットボール大会」で、4連覇達成。サッカーは「もうひとつの高校選手権」で大阪大会優勝。ソフトボールパートも熱心に活動中。岩手県開催「全国障がい者スポーツ大会」陸上・サッカーの大阪代表ではリレー：金、100m走：銀、200m走：銅、サッカー：3位と大活躍でした。

### ラケットスポーツ部

Racket Sports

ラケットスポーツ部では、主に障がい者スポーツ大会やスポーツフェスタに出場しています。ここ最近では、激戦の末メダルを獲得する生徒が増えてきました。出場できる大会の数を増やしていくとともに、今後も大会で勝つことができるようにたくさん練習をします。

### アドベンチャー部

Adventure

平成28年8月1日(月)は服部緑地公園へバーベキューに行きました。食材決めや買い出し、火起こしや調理まですべて自分たちで行ったので、とても充実感のある課外活動となりました。ミニドッチビー大会も盛り上がり、先輩・後輩の団結も深まりました。

### ダンス部

Dance

今年度は5周年を迎え、校外での発表にも積極的に挑戦しました。初めてビッグアイの大きな舞台上で本格的な音響と照明の中、緊張しながらも全員で楽しみ、たくさんの温かい拍手をいただきました。

【活動実績】  
大阪府支援学校バスケットボール大会 応援  
大阪府障がい者芸術・文化フェスタ2016 1位通過

### 剣道部

Kendo

平成28年3月21日に岸和田総合体育館で行われた「第4回大阪府公立高等学校剣道錬成大会」において、3年生部員が東住吉総合高校の選手と対戦し、メンの一本勝ちで勝利しました。現在新入部員も加え、1級認定や個人戦に向けて練習しています。

### 音楽部

Music

今年度は新入部員が5名入り、さらに進化した音楽部になりつつあります。歌もあり、楽器演奏もあり、ダンスもありと、日々がんばっています。たまがわフェスティバルでは、卒業生のOBとの合同演奏など大いに会場を盛り上げました。

### 家庭科部

Home Economics

家庭科部は今年10人の1年生が入部し、家庭科部史上最多の20名で活動しています。夏休みには多くの生徒が調理実習に参加し、和・洋・中それぞれのメニューを作りました。自分たちで作ったからこそ食べた時の美味しさは格別です。

### 美術部

Art

今年度は、現在33名で週1回のペースで活動しています。個人制作では自分の好きなイラストや立体制作をしています。今年度の共同制作ではたまフェスの垂れ幕を制作しました。  
【活動実績】  
2016年 SOMPO パラリンアート サッカーアートコンテスト一次審査通過



# たまがわの風

タイトルは、校歌の2番の一節『たまがわの風にのせて伝えよう』から引用しました。

## 常に組織としての『イノベーション』を繰り返す

本校は平成18年に大阪府で初めて職業に関する専門学科を設置する高等部のみの知的障がい支援学校として設立され、平成27年に10周年を迎えました。『就労を通じた潤いのある社会的自立をめざす』という学校目標の達成のため、職場実習を受入れていただける企業の開拓は全教職員で分担して行い、その数は開校から3年間で2000社を超えました。その後、卒業生たちの社会での頑張りもあり、今では全生徒の職場実習先を確保できるまで来ています。

この10年間、障がいのある方の就労に関する状況はさまざまな変化がありました。

平成26年の障害者に関する権利条約批准、障害者雇用促進法改正による障害者雇用率の改定、平成28年の障害者差別解消法施行など法律や制度の整備により、今では企業の方から障がい者雇用について積極的に取り組んでいただいています。

また、大阪の支援教育を取り巻く環境はここ数年で目まぐるしく変化しています。

同じタイプの高等支援学校は計5校となり、本校はそのパイオニア校として支援教育の重要性、共に学び共に育つ教育の重要性を社会に発信していくことを一層求められています。

だからこそ、社会情勢や企業のニーズを把握し、的確なマッチングにより常に求められる人材を送り出し続けなければなりません。

それに対応するため、学校経営計画の中期的目標の一つに『進取の機運に富む教職員集団の確立』を掲げ、ここ数年間で校内体制の『イノベーション』を進めてきました。

具体的には「校務分掌の再編による校務の効率化」「自立活動の充実とたくましく生きる力の育成」「地域コミュニティたまがわランドの運営」といったことです。

これまでの10年間の成果に慢心することなく、時代の変化に伴う社会や企業のニーズ、生徒や保護者のニーズの変化に対応するために、常に組織としての『イノベーション』を繰り返していく必要があります。

これまで本校の教育活動や教育実践の発信については「研究紀要」を通じて行ってきましたが、この業務の担当分掌が「学習支援部」から「地域支援部」に移行したこともあり、発信先を学校関係だけでなく、企業や福祉・労働関係そして地域等に広げ、取り組みを発信するためのツールとして更なる活用を検討し、この度【T-magazine】という名称で発行することになりました。

是非ご一読いただき、ご意見やご感想等をお寄せいただければ幸いです。

今後とも本校の教育活動にご理解ご支援のほど、よろしく申し上げます。 校長 富永 誠

## ACCESS

大阪府立たまがわ高等支援学校

〒578-0925

大阪府東大阪市稲葉2-3-25

Tel: 072-961-4730

Fax: 072-961-4788

HP: [www.osaka-c.ed.jp/tamagawa-ks/](http://www.osaka-c.ed.jp/tamagawa-ks/)

## MAP



○近鉄奈良線「河内花園」北へ1km ○近鉄けいはんな線「吉田」南へ1.5km  
○近鉄バス豊島線「豊江」東へ700m ○近鉄バス吉田線「稲葉町二丁目」東へ150m